



はくろ

白露（7日）… そろそろ秋の空気に入れ替わります …

朝、子どもたちを迎える30分だけでも汗だくになる残暑の日々です。それでも、見上げる青空の高いところに白い刷毛でシュッと掃いたような「すじ雲」を見付けて、季節が秋に移り変わっていく気配を感じました。自然を感じ取る窓口は、あちこちにたくさんあります。

<草露白 くさのつゆしろし 9月7日～11日>

白露の初候は「草露白」です。セミの声も減ってきましたが、目のいい子は、木に止まっているセミを見付けて教えてくれます。私は先週、ギンヤンマを2階のテラスで見掛けました。高速飛行なので一瞬でしたが、やっと青緑色の勇姿を目撃できました！アキアカネ（赤トンボ）やエノキの木を飛び回るタマムシも、ここで目撃しました。2階のテラスは、自然の観察スポットです。

<気持ちの切り替えを手伝う>

先日、その2階のテラスに年少児と一緒にいく機会がありました。2学期になって、朝、保護者の方と離れるときに泣く年少児がポツポツと現れています。普段ならば、5月の連休明けに見られる、後戻りの時期が今のようです。少し幼稚園に慣れた頃に、ふっとしたきっかけで「幼稚園に行きたくない」とぐずる子が必ず現れます。そんなとき私は、その気持ちは受け止めつつ、まず一緒にその場を離れて、気持ちの切り替えを手伝います。

<ふうせんのような不思議な種>

この日は、泣いている子を抱っこして、外階段から2階に行きました。途中で自分で歩くというので、手をつないでさくら組前のテラスに行きました。窓際に緑のカーテンがあり、アサガオやフウセンカズラを育てています。少し残っていた種と一緒に取り、年長の部屋に入って、そっと風船を開けてみました。中に入っていたのは、ハート模様が付いた黒い種です。おばあちゃんにお土産に持っていきたいというので、一つは開けずに、一緒に空き箱に入れてお土産にしました。そして、泣いていたことも忘れて、部屋に戻りました。

<気持ちには寄り添いつつ、振り回されず>

子どもは、まだ自分の気持ちをうまく言葉では表現できません。経験や語彙が少ないのですから、当たり前です。それなのに、泣いている子に「どうしたの?」「どうしたいの?」と聞いてはいませんか。泣いているときには、「嫌だね」「困ったね」と、うまく表現できない気持ちを代弁しながら共感しましょう。その場を離れたり、違うことで気を紛らわせたりすることで、落ち着くことも多いものです。前後の状況を考えると、原因が大人側にあったということもあります。大人に余裕がなくなると、子どもはそれを敏感に感じ取り、不安な気持ちから甘える言動になるものです。注意が必要なのは、大人がそこでマイナスなことを言い続けると、そう思い込んでしまうことです。プラスの言葉を掛けて、前向きに復元する力を付けることが、楽しい子育てのコツです。



アサガオ、フウセンカズラ、ゴーヤ…
2階さくら組前のテラスは緑のカーテンです



風船のような、フウセンカズラの実



カラカラの袋を開けると…
何ともかわいい、ハート模様の種なのです



子どもは大人の気持ちや言葉に強い影響を受けます。いいことをしたら、それを価値付ける言葉を掛けてあげましょう。残念なことをしたら、それはうれしくないなど残念な気持ちを伝えるといいでしょう。